

第**161**期 中間期 株主通信 2018年4月1日~2018年9月30日

BUSINESS REPORT





中期経営計画 "HONKI 2020"のもと 「次の100年」を見据えて グループ価値の最大化を追求してまいります

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2016年に創立100周年を迎えた保土谷化学は現在、2016年度から2020年度までの5カ年を対象期間とする中期経営計画 "HONKI 2020" を推進しております。「次の100年」を見据えて、"HONKI 2020"で掲げた6つの重要施策を着実に遂行するとともに、CSRの取り組みを一段と加速し、将来にわたる持続的な成長と企業価値の最大化を追求してまいります。株主の皆様には引き続き、変わらぬご支援とご協力を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

ここに、2018年度上期(2018年4月1日~9月30日)の業績および今後の見通しをご報告申し上げます。



保土谷化学工業株式会社 取締役社長

2018年12月 松本祐人

"HONKI 2020"の骨子
グローバル運営体制の一層の強化
新製品創出
2020年
グローバル・ニッチ分野でオンリーワン・ナンバーワンのスペシャリティ製品を創出し続ける企業

■現有製品の周辺分野 育成事業 新規分野 2016年 将来の拡大に向けた整備が完了 ■カラーフィルター用の染料 「新規テーマ探索プロジェクト」 成長事業 ■カラートナー用の電荷制御剤 「産・官・学」連携 ■新規ポリオール ■有機EL材料 ■環境対応型の電荷制御剤 ■農業用の過酸化物 **CSRの取組** 人材育成 過酢酸 動物薬用の過酸化水素 除草液剤 ■メガソーラーの緑地管理 既存電荷制御剤 **アグロ** ■過酸化水素 建材 基盤事業 ■樹脂材料 ■スピロン染料 ■物流・倉庫

上期の業績について

機能性色素セグメントの競争激化等の影響を受け、 上期の業績は減収・減益となりました

2018年度上期の日本経済、世界経済はともに、雇用・ 所得環境の改善などを背景に、緩やかな回復基調を辿り ましたが、足もとでは中東情勢の緊迫化に起因する 原油・ナフサ価格の上昇や中国の環境規制強化に伴う 原料価格の高騰が当社収益の圧迫要因となりました。 現時点におきましても、米中の貿易摩擦を契機とする 世界経済の停滞懸念や為替変動リスクの拡大など、依然 として先行き不透明な状況が続いております。

こうした状況のもと、当社グループは当上期、中期 経営計画 "HONKI 2020" で掲げた諸戦略を進めて まいりました。具体的には、安定した収益基盤の確保 と「次世代の柱」「新たな付加価値の創出」に力を注ぐ とともに、グローバル運営体制の一層の強化や、多様 化する社会に対応できる人材の育成など、経営体制の 強化に向けた諸施策を実行しています。グローバル経営 の強化に関しては、2018年6月に欧州の営業活動拠点 としてドイツ・デュッセルドルフに現地法人を設立いた しました。またCSR面では2018年9月、グループ会社 である保土谷建材が、国土交通省の主導するエコレール マーク認定制度において、認定企業の仲間入りを果たし ました。

こうした事業・体制両面の取り組みの結果、当上期の 連結業績は、売上高172億13百万円(前年同期比9.1% 減)、営業利益11億29百万円(前年同期比44.8%減)、 経常利益13億77百万円(前年同期比44.9%減)、親会社 株主に帰属する四半期純利益9億93百万円(前年同期比 39.3%減)となりました。機能性色素セグメントおよび 物流関連セグメント等が低調で、前年同期比で減収

減益となりました。

セグメント別の売上状況に関しましては、機能性色素 セグメントで有機EL材料事業が大幅な減収になりました が、ウレタン原料などが堅調に推移した機能性樹脂 セグメントや、家庭園芸向け除草剤が堅調に推移した アグロサイエンスセグメントは、ほぼ前年同期比並み の売上を確保しました。紙パルプおよび環境分野向け の過酸化水素の需要が減少した基礎化学品セグメント の売上は、前年同期比で微減となっております。

なお2018年度上期の中間配当金につきましては、業績 動向、将来の事業展開と内部留保の充実、不測のリスク への対応を総合的に勘案し、前年同期末と同額の1株 当たり25円とさせていただきました。

2018年度上期連	(前年同期比)	
売上高	17,213 百万円	△9.1%
営業利益	1,129 百万円	△44.8%
経常利益	1,377 百万円	△44.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	993百万円	△39.3%



中期経営計画の進捗について

基盤事業の強化を図りながら 新規事業の開拓・育成に注力しています

当社グループは現在、中期経営計画 "HONKI 2020" のもと、基盤事業のさらなる強化を図りながら、成長事業における成果の刈り取りを進め、さらには次代の収益源となる新規事業の開拓と育成に取り組んでおります。HONKI (Hodogaya as Only one, Number one with our Key technology and Imagination) という言葉は、有機合成をはじめとしたコア技術をベースに、オンリーワン、ナンバーワンのスペシャリティ製品を創造し続ける企業グループでありたいという当社グループの強い決意の表れです。

当上期末で "HONKI 2020" は折り返し点を迎えました。 残り2年半、当社グループは高機能・高付加価値創出型 の企業グループとして、イノベーションを通じて産業 と社会に新たな価値を発信・提案すると同時に、独自 の化学技術を駆使して地球環境に配慮した製品づくり に取り組み、環境と社会が調和する未来社会の創造に 邁進してまいります。

"HONKI 2020"経営目標2020年度(計画)売上高500億円営業利益50億円

10.0%

通期の見通しについて

中期経営計画目標の達成に弾みをつける 経営成績を見込んでいます

2018年度下期は、新興国経済の減速懸念や世界的なエネルギー情勢の不安定化など、上期に増して先行き不透明な経営環境が続くものと見ています。そうした中、当社グループは業容の拡大と収益力の強化に力を注ぐとともに、品質重視、ESG重視の経営姿勢を堅持し、ステークホルダーの皆様から信頼される企業グループを目指してまいります。また、2018年10月1日には、品質と環境・安全に関する機能、役割および責任を明確に定め、業務遂行を強化することを目的として「環境・安全・品質保証部」を「環境安全部」と「品質保証部」に再編いたしました。

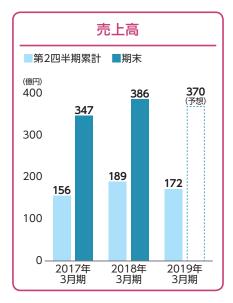
2018年度の通期業績につきましては、前期比で減収減益となるものの、ほぼ計画通りの着地を見込んでおります。今後も中期経営計画"HONKI 2020"の達成に向け経営資源を積極投入し、持続的成長と株主価値の向上を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

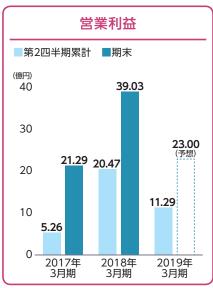
2018年度通期連結業績予想

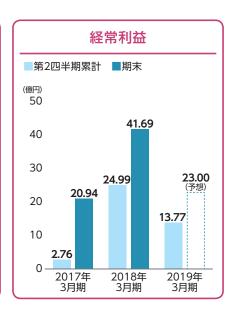
売上高	370億円
営業利益	23億円
経常利益	23億円
親会社株主に帰属する当期純利益	11 億円

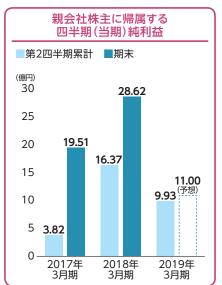
営業利益率

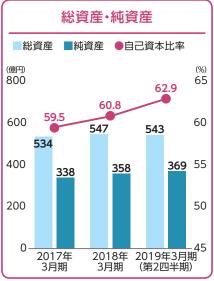


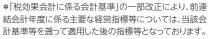


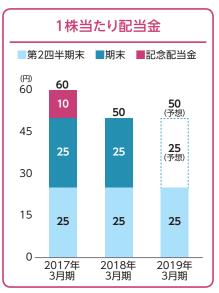














機能性色素



上期の概況

有機EL材料事業は、ディスプレイ分野での需要の減少と競争激化により、大幅な減収となりました。また、イメージング材料事業は、プリンター向け材料の需要低迷が続いており、大幅な減収となりました。一方で、色素材料事業は、デジタル家電向けアルミ着色用染料が引き続き堅調に推移し、前年同期並みとなりました。以上の結果、当セグメントの売上高は52億66百万円、営業利益は4億54百万円となりました。

売上高

5,266百万円 (前年同期比11.9%減)

営業利益

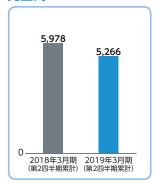
454百万円

(前年同期比58.3%減)

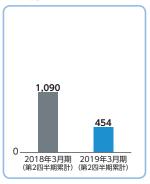
セグメント別売上高比率



売上高(百万円)

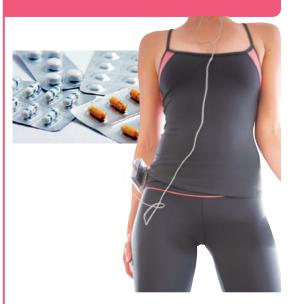


営業利益(百万円)



事業	用途
有機EL材料	有機ELディスプレイ・照明の主要材料 (正孔輸送材料・電子輸送材料・発光材料)
イメージング 材料	トナーの重要な添加剤である電荷制御剤、 コピー機・プリンターの心臓部品である 有機光導電体ドラム用の材料、インク ジェットプリンター用の染料
色素材料	デジタル家電、文具および カラートリートメント用の染料、食用色素

機能性樹脂



上期の概況

樹脂材料事業は、ウレタン原料やタイヤ用途 向けの材料が堅調に推移し、前年同期並みと なりました。一方、特殊化学品事業は、医薬 品向けの競争激化により、減収となりました。 また、建築材料事業は、防水工事の受注減少 により、減収となりました。以上の結果、当 セグメントの売上高は56億55百万円、営業 利益は1億49百万円となりました。

売上高

5,655百万円 (前年同期比4.3%減)

営業利益

149百万円 (前年同期比26.9%減)



セグメント別売上高比率

売上高(百万円)



営業利益(百万円)



事 業	用途	
樹脂材料	ウレタン原料、接着剤、剥離剤	
建築材料	ウレタン系防水材料 (ビルや立体駐車場の屋上 ほか) 防水材料・止水材料 (下水処理場、浄水場、地下ピット ほか)	
特殊化学品	医薬品・樹脂関連・電子材料用の 各種中間体	



基礎化学品



上期の概況

過酸化水素は、紙パルプおよび環境分野向け 等の需要が減少し、減収となりました。また、 過酸化水素誘導品は、需要が減少し、減収と なりました。以上の結果、当セグメントの 売上高は34億12百万円、営業利益は2億 94百万円となりました。

売上高

3,412百万円 (前年同期比4.5%減)

営業利益

294百万円 (前年同期比20.8%減)

セグメント別売上高比率



売上高(百万円)



営業利益(百万円)



事 業	用 途
過酸化水素	紙パルプ・繊維などの漂白剤、土壌処理などの環境浄化剤、養殖魚の寄生虫 駆除剤、家庭用洗剤向け誘導品 ほか

アグロサイエンス



売上高

1,786百万円 (前年同期比0.2%減)

営業利益(△損失)

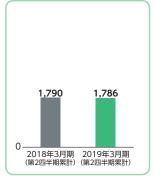
△6百万円

(前年同期比一)

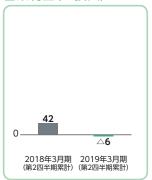




売上高(百万円)



営業利益(△損失)(百万円)



上期の概況

家庭園芸向け除草剤等は、引き続き堅調に 推移し、前年同期並みとなりました。以上の 結果、当セグメントの売上高は17億86百万円、 営業損失は6百万円となりました。

事 業	用途
農薬	非農耕地・ゴルフ場・緑地管理分野などの 除草剤・殺虫剤・酸素供給剤 ほか



物流関連



売上高

1,021百万円 (前年同期比35.8%減)

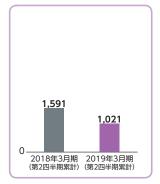
営業利益

241百万円 (前年同期比29.6%減)

5.9%

セグメント別売上高比率

売上高(百万円)



営業利益(百万円)



上期の概況

輸出の取り扱い量や、倉庫保管量の減少により、大幅な減収となりました。以上の結果、 当セグメントの売上高は10億21百万円、営業 利益は2億41百万円となりました。

事 業	用 途
物流関連	倉庫業、貨物運送取扱業



「ケミカルマテリアルJapan2018」への出展

当社グループは、5月にパシフィコ横浜にて開催された「ケミカルマテリアル Japan2018」に出展いたしました。有機EL材料やアルミ着色用染料など、当社 グループのさまざまな製品を紹介し、製品群の幅広さ、そして技術の高さを 大きくアピールいたしました。



「こおりやま産業博2018」への出展

当社グループは、10月に福島県郡山市にて開催された 「こおりやま産業博2018」に出展いたしました。郡山工場 の所在する地域住民の方々に、もっと当社のことを知って もらうため、郡山工場の歴史や当社製品を使用した一般的 な最終製品を展示、紹介しました。また、お子様とその ご家族を対象に、当社製品のアルミ着色用染料を使った 化学体験ブースを併設しました。たくさんの方にご来場 いただき、また、「コオリヤマ エキスポ アワード 2018」 では、準グランプリを獲得し、保土谷化学に触れてもらう 良い機会となりました。今後も地域・社会とともに発展する ための活動を継続してまいります。



保土谷建材 エコレールマークの認定

エコレールマークの認定は、地球環境にやさしい鉄道貨物輸送を一定以上利用 している商品(陸上貨物輸送比率30%以上)または企業(陸上貨物輸送比率 15%以上)に対して認定を行う制度です。昨年認定を受けた保土谷化学に加え、 新たに当社グループの保土谷建材が企業として、エコプルーフが商品として認定 を受けました。今後も当社グループ全体で、環境負荷低減の取り組みを進めて まいります。





当社グループのエコレールマーク認定商品

サカナガード、過炭酸ナトリウム、過酢酸、電荷制御剤TP-415、エコプルーフ



HODOGAYA CHEMICAL EUROPE GmbH 設立

当社は、2010年9月にデュッセルドルフ事務所を開設し、欧州における顧客関係の構築や、情報収集活動を推進してまいりました。このたび、従来から展開している各種事業について、現地に密着した迅速な営業活動を展開するため、「連絡事務所」体制から、欧州現地での「営業活動拠点」体制へ、機能の強化・拡充を図ることといたしました。

営業拠点として当社の製品を積極的にアプローチ していくために、顧客・潜在顧客までの距離を考え て、欧州の中心にあるデュッセルドルフに決定し ました。欧州における当社グループの事業拡大を 図るべく、より現地に密着した迅速な営業活動の 展開に努めてまいります。



ガイゼル市長との記念撮影

概要

称 HODOGAYA CHEMICAL EUROPE GmbH

所 在 地 ドイツ デュッセルドルフ市

出 資 額 325,000€

出資比率 保土谷化学100%

事業内容 化学品およびその原料の仕入・販売

設立年月 2018年7月

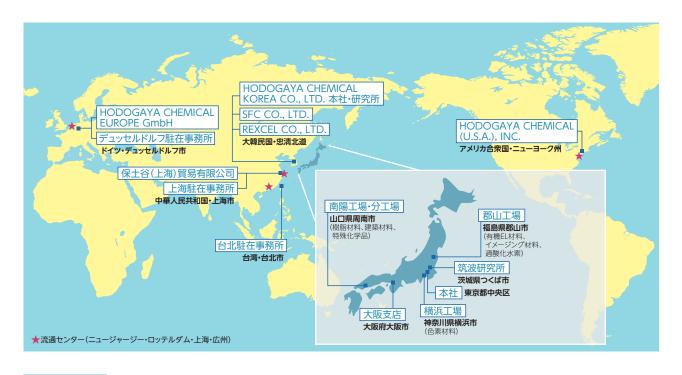
営業開始年月 2018年10月

「統合報告書2018」発行のお知らせ

すべてのステークホルダーの皆様に、当社グループの事業活動やCSR活動をよりよくご理解いただけるよう、2017年より「統合報告書」を発行していますが、このたび2018年版が完成いたしました。創刊号でいただいたご意見・ご要望をもとに、100年企業としての魅力と強味、また社員の顔や生の声をお伝えできるように編集いたしました。ホームページにも掲載していますので、当社グループの取り組みをぜひご覧ください。

冊子をご希望の方は、郵便番号、住所、氏名を記載の上、ir@hodogaya.co.jp へメールでお申込みください。





グループ会社 (当社の出資比率)

桂産業 (株) 化学品の仕入・販売	100.0%	HODOGAYA CHEMICAL (U.S.A.), IN 化学品の仕入・販売	IC. 100.0%
保土谷建材(株) 土木・建築材料の製造・販売	100.0%	SFC CO., LTD.(大韓民国) 有機EL材料および精密化学品の製造・販売	54.8%
保土谷JRFコントラクトラボ(株) 化学品の分析および研究・開発業務受託	87.6%	HODOGAYA CHEMICAL KOREA CC 化学品の仕入・販売および開発	86.7%
保土谷ロジスティックス(株) 倉庫業、貨物運送取扱業	100.0%	保土谷(上海)貿易有限公司 化学品およびその原料の仕入・販売	100.0%
保土谷UPL㈱ 農薬の製造・販売	60.0%	HODOGAYA CHEMICAL EUROPE G 化学品およびその原料の仕入・販売	mbH 100.0%
保土谷アグロテック(株) 農薬の製造・販売	80.0%		



会社概要

社 名 保土谷化学工業株式会社

英文社名 Hodogaya Chemical Co., Ltd.

本社所在地 〒104-0028

東京都中央区八重洲二丁目4番1号

ユニゾ八重洲ビル

T E L 03-5299-8000(大代表)

F A X 03-5299-8250

設 立 1916(大正5)年12月11日

資 本 金 111億96百万円

従 業 員 729名(連結)、445名(個別)

役員

取締役会長 喜多野利和

取締役社長 兼 社長執行役員 松本 祐人

取締役 兼 専務執行役員 砂田 栄一

取締役(監査等委員) 三柴 英嗣

取締役(監査等委員) 蛭子井 敏

社外取締役(監査等委員) 加藤 周二

社外取締役(監査等委員) 山本 伸浩

社外取締役(監査等委員) 本村 裕三

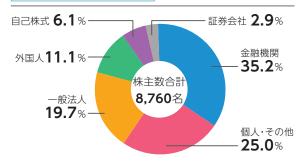
株式の状況

20,000,000株	発行可能株式総数		
8,413,726株)総数	済株式	発行
8 760名	数	主	株

大株主

———————————————— 株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
東ソー(株)	700	8.3
(株)みずほ銀行	298	3.6
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	298	3.5
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	247	2.9
農林中央金庫	227	2.7
明治安田生命保険(相)	164	2.0
(株)東邦銀行	148	1.8
三井住友海上火災保険(株)	141	1.7
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	131	1.6
(株)山口銀行	130	1.5

所有者別株式分布状況



株主メモ

年 度 剰余金の配当基準日 定時株主総会 毎年6月中 単 元 株 式 数 株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関 公 告 方

毎年4月1日~翌年3月31日 3月31日(中間配当を行う場合は9月30日) 100株

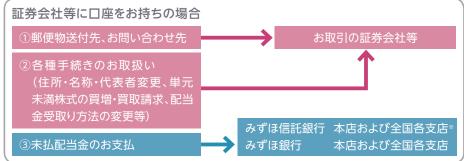
東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

電子公告(https://www.hodogaya.co.jp/) ただし、やむを得ない事由によって、電子 公告による公告をすることができない場合 には、日本経済新聞に掲載して行います。

上場株式配当等の支払に 関する通知書について

和税特別措置法の改正により、株主様に支払配当 金額や源泉徴収税額等を記載した支払通知書を 通知することとなっております。つきましては、 支払通知書の法定要件を満たした配当金計算書を 同封しておりますので、確定申告の添付書類として ご使用ください。なお、配当金を株式数比例配分 方式によりお受取りの場合、源泉徴収税額の計算は 証券会社等にて行われますので、確定申告の添付 書類としてご使用いただける支払通知書につきま しては、お取引の証券会社等へご確認ください。

株式事務に関するお問い合わせ先



証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合) ①郵便物送付先、お問い合わせ先 ②各種手続きのお取扱い (住所・名称・代表者変更、単元 みずほ信託銀行 本店および全国各支店* 未満株式の買増・買取請求、配当 みずほ証券 本店および全国各支店 金受取り方法の変更等) みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ③未払配当金のお支払 みずほ銀行 本店および全国各支店

特別口座とは

2009年1月5日に実施され た株券電子化までに、証券 会社を通じて株券を証券保 管振替機構(ほふり)に預け ていない場合に、株主様の 権利を保全するために当社 がみずほ信託銀行に開設し た口座のことです。特別口座 では、単元未満株式の買増・ 買取以外の株式売買はでき ません。証券会社等に口座を 開設し、株式の振替手続きを 行っていただく必要があり ます。

※トラストラウンジ除く

コーポレートサイトリニューアルのお知らせ

このたび、当社グループのコーポレートサイトをリニューアルいたしました。

当社グループのことを知らない方にも、当社グループを知って身近に感じてもらえるように、トップページでは街を散歩しながら生活の中で当社グループの製品がどのように使われているのか紹介しています。今回のリニューアルでは、「統合報告書2018」も充実した内容となっています。またスマホからも見やすくなりましたので、ぜひご覧ください。

Walk in HODOGAYA!

MISSION

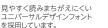
https://www.hodogaya.co.jp/

IRカレンダー 2018年度予定











環境にやさしい植物油 インキを使用して印刷 しています。



森林管理協議会(Forest Stewardship Council®) で認証された適切に管理された森林からの原料を含 む、FSC認証紙を使用しています。